



## PRESS RELEASE

令和 6 年 10 月 23 日

**デパート・スーパー食品売場のライブ中継による  
食品ロス削減の取り組み「のこり福キャンペーン2024」を実施！**

## ◆発表のポイント

- ・令和 4 年・5 年に実施したデパート・スーパー等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として、引き続き今年 11 月に「のこり福キャンペーン 2024」を実施します。
- ・期間は、令和 6 年 11 月 1 日～11 月 30 日、参加事業者はデパート・スーパー等 5 事業者です。
- ・割引食品の購入・てまえどり（※ 1）の啓発資材（ポスター等）を参加店舗の食品売場等に掲示して食品ロス削減への協力を呼び掛けます。また、デジタルサイネージ（※ 2）・キャンペーンで使用するアプリのプッシュ通知によりキャンペーンの告知・啓発を強化します。
- ・アプリ上で表示するポイント還元のクーポン特典を付与し、これに加えてクーポン利用実績 1 件あたり 10 円をフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します（一部店舗のみ）。
- ・キャンペーン中のアプリ利用実績データ等に基づき、食品ロス削減効果を検証します。また、AI を用いた食品の値引システムの導入効果を評価します。
- ・映像から人の行動を認識する行動認識 AI（※ 3）を利用し、店内に設置した啓発資材の認知、てまえどりなどの食品ロス削減行動を測定し、本キャンペーンの啓発効果を検証します。

岡山大学が主体となって令和 4 年・5 年に実施したデパート・スーパー等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として、引き続き今年 11 月に「のこり福キャンペーン 2024」を実施します。岡山大学低炭素・廃棄物循環研究センター、岡山大学公認クラブ（校友会）の環境部 ECOLO が協働で企画・運営にあたり、期間は令和 6 年 11 月 1 日～11 月 30 日です。本取り組みでは、趣旨に賛同いただいた 5 事業者の食品売場に Web カメラを設置し、中継画像（静止画像）を配信するスマートフォン用のアプリを使用します。中継画像は、11 月 1 日より「のこり福キャンペーン」ホームページ（<https://www.nokorifuku.com>）にて配信します。

参加店舗では、割引食品の購入・てまえどりの啓発資材（ポスター等）を食品売場等に掲示して食品ロス削減への協力を呼び掛け、デジタルサイネージ・アプリのプッシュ通知によりキャンペーンの告知・啓発を強化します。また、アプリ上で表示するポイント還元のクーポン特典を付与し、これに加えてクーポン利用実績 1 件あたり 10 円をフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します（一部店舗のみ）。

最新の AI 手法を活用する観点から、AI を用いた食品の値引システムを試験的に用いて導入効果を評価します。また、映像から人の行動を認識する行動認識 AI を利用し、店内に設置した啓発資材の認知、てまえどりなどの食品ロス削減行動を測定し、本キャンペーンの啓発効果を検証します。これらの研究成果は、参加事業者・スーパーマーケットの業界団体、農林水産省等の行政機関に報告し、有用な知見の共有・社会実装を通じてさらなる食品ロス削減に貢献することを目指します。



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

岡山県によれば、県内の 2019 年度の食品ロス発生量は約 12.7 万 t、うち食品小売業から 1.1 万 t と推計されており、その発生抑制・利活用の推進が大きな課題となっています。食品小売事業者においては、生鮮食品・日配品・総菜等の販売期限の短い食品カテゴリーの食品ロス率が相対的に高く、てまえどりの促進・割引商品の購入喚起等を通じた売れ残り防止策＝食品ロス削減策の導入・強化が必要です。

岡山大学では、令和 4 年・5 年の食品ロス削減月間にデパート・スーパー等の食品売場のライブ中継による食品ロス削減の取り組み「のこり福キャンペーン」を実施しました。同取り組みでは、幅広い市民の方々にお買い得な割引食品の情報を随時提供して見える化することを通じて、その購入をサポートし、売れ残りを防ぐことを目指して、趣旨に賛同いただいた店舗の食品売場にライブカメラを設置（図 1）し、その中継画像（静止画像）を配信するとともに、画像内の商品名・価格・割引率等のデータを提供するスマートフォン用のアプリ（図 2）を開発しました。また、割引食品の購入・てまえどりを喚起する啓発資材・学生川柳（図 3）を店頭に掲示し、参加店舗のうち 3 店舗においてキャンペーン前と比較して 8～54%の食品ロス削減効果を達成しました。

本年度は、これまでに実施した取り組みに加えて、アプリのプッシュ通知機能を用いた告知・啓発、デジタルサイネージによる映像・音声を用いて告知・啓発の強化を図ります。また、アプリ上で表示するポイント還元のコピー特典を付与し、これに加えてクーポン利用実績 1 件あたり 10 円をフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します（一部店舗のみ）。

最新の AI 手法を活用する観点から、AI を用いた食品の値引システムを試験的に用いて導入効果を評価します。また、映像から人の行動を認識する行動認識 AI を利用し、店内に設置した啓発資材の認知、てまえどりなどの食品ロス削減行動を測定し、本キャンペーンの啓発効果を検証します。これらの研究成果は、参加事業者・スーパーマーケットの業界団体、農林水産省等の行政機関に報告し、有用な知見の共有・社会実装を通じてさらなる食品ロス削減に貢献することを目指します。



図 1 カメラ設置の様子



図 2 アプリの画面イメージ



図 3 使用した啓発資材と  
学生川柳の例

啓発資材の出典は農林水産省「食品ロス削減に資する小売店頭用啓発資材」

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/keihatsu.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/keihatsu.html)



## PRESS RELEASE

### <取り組みの内容>

- 岡山大学が主体となって令和4年・5年に実施したデパート・スーパー等の食品売場のライブ中継・アプリ配信による食品ロス削減の取り組みの続編として、引き続き今年11月に「のこり福キャンペーン2024」を実施します。
- 岡山大学低炭素・廃棄物循環研究センター、岡山大学公認クラブ（校友会）の環境部 ECOLO が協働で企画・運営にあたり、期間は令和6年11月1日～11月30日です。
- 趣旨に賛同いただいた5事業者の食品売場に Web カメラを設置し、中継画像（静止画像）を配信するスマートフォン用のアプリを使用します。中継画像は、11月1日より「のこり福キャンペーン」ホームページ（<https://www.nokorifuku.com>）にて配信します。
- 参加店舗では、割引食品の購入・てまえどりの啓発資材（ポスター等）を食品売場等に掲示して食品ロス削減への協力を呼び掛け、デジタルサイネージ・アプリのプッシュ通知によりキャンペーンの告知・啓発を強化します。
- アプリ上で表示するポイント還元のコーポン特典を付与し、これに加えてクーポン利用実績1件あたり10円をフードバンク団体に寄付し、その活動を支援します（一部店舗のみ）。
- 参加事業者・店舗は、（株）天満屋・岡山天満屋、岡山大生活協同組合・ブックストア及びピオーネショップ、生活協同組合おかやまコープ・コープ大野辻、（株）天満屋ストア・ハッピーズ津島店、（株）フレスタ・フレスタ津島店の5事業者の店舗です。
- 本キャンペーン期間中のアプリ利用実績、食品ロス発生量、売上実績データ（匿名データ）、アンケート調査データ等を用い、データサイエンス手法により食品ロスの削減効果とその要因関連（個人属性、食品ロス削減に係る認知・態度・行動の関連性）を明らかにします。
- 最新の AI 手法を利活用する観点から、AI を用いた食品の値引システムを試験的に用いてその導入効果を評価します。
- 映像から人の行動を認識する行動認識 AI を利用し、店内に設置した啓発資材の認知、てまえどりなどの食品ロス削減行動を測定し、本キャンペーンの啓発効果を検証します。
- 本キャンペーンの実施にあたり、下記事業者の方々にご参加いただきました。  
アプリ開発（機能強化）：ピープルソフトウェア（株）  
啓発媒体・コンテンツデザイン：（株）トータルデザインセンター  
AI 値引きシステム：（株）シノプス  
サイネージ視聴・属性等の AI による分析：TOPPAN（株）  
行動検知 AI：他1社
- 本キャンペーンの名称は、環境部 ECOLO の部員・ノートルダム清心女子大学4年生藤井朱梨さんが提案した案を採用しました。

### <社会的な意義>

- 令和4年・5年に引き続き、本取り組みで開発したアプリにより、幅広い市民の方々にお買い得な割引食品の情報を見える化することを通じてその購入をサポートし、売れ残りの積極的な購入＝食品ロス等の削減の意識・習慣が定着することが期待されます。



## PRESS RELEASE

- 上記に加えて、アプリのプッシュ通知・デジタルサイネージによる啓発、アプリクーポン特典による①ポイント還元+②フードバンク団体への10円による参加促進、AIを用いた食品値引きシステムの効果検証等を通じて食品ロス削減のさらなる強化を図ります。
- データサイエンス・行動認識 AI を用いて食品ロス削減行動とその促進・阻害に関連する要因を明らかにし、食品ロス削減推進に役立つ科学的知見をとりまとめます。
- 研究成果は、参加事業者・スーパーマーケットの業界団体、農林水産省等の行政機関等に報告し、有用な知見の共有・社会実装を通じてさらなる食品ロス削減に貢献することを目指します。

### ■研究資金

本事業は、農林水産省「令和6年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減等課題解決事業補助金（需要に見合った製造、販売等推進事業）」の支援を受けて実施しました。

### ■補足・用語説明

- ※1 商品棚の手前にある販売期限の迫った製品を積極的に購入する取組。
- ※2 表示と通信にデジタル技術を活用してディスプレイなどに映像や文字を表示する情報・広告媒体。電子看板、電子掲示板とも呼ばれる。
- ※3 店舗内のカメラ映像（動画）から人のさまざまな行動を認識する AI 技術。

・「のこり福キャンペーン 2024」ホームページ（10月29日～公開予定）

URL：<https://www.nokorifuku.com>

#### <お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域  
准教授 松井 康弘  
(電話番号・FAX) 086-251-8991



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。